

北登会会報 2024



【会長あいさつ】

鈴木克巳(36回)

本年1月28日開催の総会で高林先輩の後を受けて、第39期から会長を務めさせて頂くことになりました。北高山岳部で登山をかじっただけで登山の知識や経験は豊富ではありませんがどうぞよろしくお願いします。

副会長に深谷直久さん(41回)、鈴木貴晴さん(48回)、会計に北嶋敏明さん(43回)、そして事務局に高林宏前会長(25回)、顧問に松山英達前事務局さん(25回)と、登山経験や北登会運営経験のある方々にサポート役をお引き受け頂きました。

役員一同で北登会の運営に努めていきますのでご支援をよろしくお願いします。

北登会の目的は主に(1)会員相互の親睦を図るための懇親会(2)名簿整備、会報の発行(3)母校山岳部の活動援助(4)遭難対策の積立の4本立てとなっていますが、特に以下の2項目を重点的に取り組んでいきたいと思っています。

・会員の世代交代が最大のテーマで、ここ数年会員の親睦を深めるために若手子育て世代も参加しやすい近場でのハイキング、キャンプ、カヌー体験など企画してきました。



自分も含めた30回代は空白となってしまいましたが、親睦を深めて40回50回代につなげていきたいと思っています。

・現役山岳部に対しては登山装備の貸与、山行時の差入会報配布(夏山合宿感想文の記載)など様々な支援を続けた結果、北登会の存在と目的も周知されつつあり、ここ数年夏山合宿に大学生OBOGがサポート参加してくれるようになりました。顧問の先生と相談しながら引き続き現役山岳部の活動援助を続けていきたいと思っています。

さて、北高は創立130周年、そして山岳部は昭和21年創部され78年目を迎えました。また北登会は昭和62年1月18日に創立され39期目となりました。ここ数年で山岳部創部80周年、北登会創立40周年など節目の年にもなりますので、より多くのOBOGが集まり親睦を深めることを期待しています。



新入生歓迎山行
(秋葉山)

●北登会ホームページアドレス

<http://www.hokutokai.sakura.ne.jp/>

【北高山岳部活動状況】

浜松北高等学校山岳部
顧問 山口安司



前任の佐々木先生から引き継ぎ、4月から新たに顧問となりました。よろしくお願いいたします。私の山岳経験ですが、高校時代の修学旅行で嫌々唐松岳に登ったのが最初でした。その後、登山とは関わりのない生活を送っていましたが、社会人になり、安曇野から見た北アルプスの美しさに心を動かされ、登山を始めるようになりました。高山に登った経験があったからこそ、北アルプスに登ってみようと思えたことを考えると、若いころの経験の重要性を感じます。部員たちにとってもこの高校時代の経験が、登山と本格的に関わるきっかけとなり、山を愛する「山男」「山ガール」になっていってほしいと思っています。

【2024 年度活動状況】

今年の新入生は昨年に引き続き女子6人、男子8人の計14名ですが、男子については二十数名の入部希望者が集まり、セレクションを勝ち抜いた者たちが入部しております。

5月3、4日には、1～3年の生徒の多くが参加して、秋葉山にて新入生歓迎山行（三年生を送る会）を行いました。3日の晩にはキャンプファイヤーを囲んで1年生が一発芸を行うとともに、3年生一人ひとりが山岳部への熱い思いを語ってくれました。

今年度、夏山合宿に向けて、7月に宝永山、瑞牆山・金峰山で歩荷登山を行いました。例年、秋葉山で歩荷を行っていたようですが、熱中症の危険性を考え、瑞牆山・金峰山に変更いたしました。高山での歩行練習にもなるため、高山での一泊二日歩荷登山を今後も継続していきたいと考えています。また、2つの歩荷登山には鈴木克巳会長はじめ社会人OBの方々にも参加いただき、御支援をいただきました。

夏山合宿の行程は、以下の通りです。

①新穂高温泉→ワサビ平小屋、②鏡平小屋→双六小屋、③双六岳→三俣蓮華岳→鷲羽岳→祖父岳→雲ノ平、④薬師沢小屋→薬師峠キャンプ場、⑤太郎平→折立」



双六岳にて

昨年度は、新型コロナウイルス感染によって、途中撤退となったため、合宿にかける二年生の意気込みもひとしおでした。

また、登山を始めて3か月という1年生の多くにとっては、4泊5日という長丁場の登山に挑戦する期待と不安を抱えての登山となりました。

実際には天候に恵まれ、5日間ほぼ雨に降られることなく、北アルプスの絶景を楽しみながらの登山となり、生徒たちにとっても山の魅力を知る機会になったと思います。

行程についてですが、当初は、5日目に薬師岳ピストン後に下山の予定でしたが、生徒の疲労を勘案し、強行すればケガの恐れがあると判断し、これをカットし、下山することにしました。残念ではありましたが、大きなケガや病気もなく下山することが登山にとって最も重要なことと考え、生徒たちとも相談の上このような決定をしました。

ただ、登り残した山があれば、「薬師岳に登りたい」という気持ちが強く残り、彼らが登山を続けていく原動力にもなり得るため、却ってよい選択だったのかとも思っております。詳しくは生徒たちの作文をご覧ください。

今回、夏山合宿を通じて、高校登山には、社会人登山とは異なる経験や知識が必要であることを痛感しました。

そして、スポーツエキスパートとして、今年度も山岳部の指導に携わっていただき、前顧問・佐々木先生から多くのことを学び、一人前の高校登山の指導者になる必要とともに、山岳部を物心共に支えてくださっている、北登会の皆様の支援によって、部活動が成り立っていることを身にしみて感じました。今後とも御指導と御支援をいただけますよう、お願い申し上げます。

北高山岳部 2024 年度活動予定

4/13-14	県一次予選（満観峰）	2～3年
5/3-4	新入生歓迎登山（秋葉山）	1～3年
5/18	二次予選下見	選手
5/25-26	県二次予選（愛鷹山）	選手
6/8	6 月月例山行（宇連山）	1～2年
7/6	7 月月例山行（宝永山）	1～2年
7/20-21	瑞牆山・金峰山	1～2年
8/7-11	夏山合宿（双六・鷲羽・雲ノ平）	1～2年
8/26	校外クライミング練習	1～2年
9/7-8	9 月月例山行（硫黄岳・天狗岳）	1～2年
9/28-29	校外練習（愛知県民の森）	1年
10/19-20	新人大会（山伏）	1～2年
11/9-10	競技力向上大会（湖西連峰）	選手・運営補助
11/16	11 月月例山行（鈴鹿山系）	1～2年
12/25-27	スキー合宿（戸狩温泉）	希望者
2/2	歩荷大会（湖西連峰）	1～2年
3/20-22	スキー合宿予備日	希望者
3/31	3 月月例山行・下見（湖西連峰）	1～2年

【夏山合宿を終えて】

【渡瀬 直音】(2 年男子部長)

4 泊 5 日の夏山合宿は、薬師岳がカットになったものの 天候に恵まれた、気持ちの良い山行になった。まずは無事に帰ってこれたことを嬉しく思う。去年夏山を途中下山した私たち二年生にとって今年はそのリベンジだ。当然、夏山に向けて念入りに準備した。そして、合宿の中では景色や花、風など北アルプスの隅々まで楽しめるだけの準備や仲間への信頼、余裕があった。私たち山岳部は、二年足らずの経験や知識しか持っていないが、「山岳部」という集団として互いに足りない部分を補い合いながら今日まで活動してきた。夏山では様々な問題が起きたが、山岳部員で話し合ったり、協力したりしてこの夏山合宿を乗り越えられたのは本当に良かったと思う。

この 5 日間、北アルプスを去年の分まで存分に味わってきた。強く印象に残っているのは多くの山を縦走した 3 日目。去年経験した南アルプスとは違って早くから森林限界に達し、これから登る双六や鷲羽の前に立てば、その凛々しい山の姿に恐れ、興奮した。写真や動画でしか見れなかった双六や鷲羽の山道を自分の足で踏みしめていくのは爽快だった。

北アルプスの美しく雄大な山々はもちろん、双六から見える天空の滑走路、雲ノ平の庭園、見たいもの全て見る事ができた。新穂高側から始まり雲の平を通って折立まで、本当に贅沢な行程だったと思う。

また、自分は部長として夏山で成長できたと思うことがある。それは、「役割を分担できた」ことだ。自由な時間も限られている夏山で、多くの人に役割を分担せざるを得ない状況があった。自分は初めその状況を申し訳なく思っていたが、周りには「同じ志を持った心強い山岳部員ばかりだった」と改めて気づく事ができた。積極的な思いで人を頼れるのはきっと山岳部という集団の強みだ。

「頼る」の話で言えば顧問やコーチ、OG, OBの方々には本当に頼ってばかりになってしまいました。保護者の方々も含め、多くの協力の上で私たちの夏山合宿が成り立っていたのだと改めて感じます。私たちを夏山まで連れて行ってくださり、本当にありがとうございました。

【西澤 純可】(2 年女子部長)

後悔しない 2 年間に。思い残すことがないように、山岳部に入れたこの奇跡を大切に。最初の秋葉山で、涙ながらに訴えた 3 年生の言葉。あれから学年が変わり、この言葉を残した先輩はもう卒業してしまったが、今でも鮮明に覚えている。

5 日間はあっという間に過ぎ去った。去年からの期待と緊張が詰まっていたからだろう、予想の何倍も早く終わってしまった。

温泉に入った時、夏山を無事終えることが出来たと思う反面、この忌わしい体の汚れや痛みと共に、登頂の感動や炊事の賑やかな思い出など、蓄積してきたもの全てが色褪せていくようで、なんだか手放しには喜べなかった。

中には歩行時間が 10 時間を超えた日もあった。良いテント場が確保できず、夜通し背中に当たる石と格闘した日もあった。衣類やテントの臭いに発狂したくなる日もあった。しかしながら、下界での豊かな衣食住を捨ててでも、夏山合宿という山岳部に入らなければ味わえなかったことが経験できて、私は大いに幸せ者である。

特に、鷲羽岳の山頂から見下ろす景色。吹き抜ける風、周囲の山の陰影や稜線、風に靡く一輪の花が美しくて、視界に入ったもの全てが芸術作品のように思えた。写真に残すだけでは惜しく、あの瞬間を

脳裏に焼き付けた。

4 日目に 2 年生でラーメンを作った時。夜遅く、座った場所は狭い上に皆の靴が香ばしく環境は劣悪だったが、今までの努力を讃え、きっとこの場限りの時間に喜びを分かち合っているようで、私の中の宝物になった。

そして最終日にある分岐で、あと折立まで 4.2km という看板を見た時。もうあと 5km も歩かない内に夏山が終わってしまう、と思い知り悲壮感に苛まれた。自分の夏山を終わらせるには、5 日間では短すぎる。もっと綺麗な星空が見たい、もっと高い山へ登りたい、もっと部員や先輩と話したい。

1 年の時、山で困憊している時に、何故自分は山岳部に入ったのか、と自問自答を繰り返していたが、やっと答えが出た。「どこか他人事で、飽き癖が付き纏う私に、山は刺激を与え続けてくれるから」後輩に来年があるのが非常に羨ましい。

これにて夏山合宿は終了だ。ただ、私たちの山行が終わりというわけではない。この夏山合宿では、私は一隊のリーダーを務めたが、ペースや休憩タイミングなど、まだ至らない点が多かったように思う。常に他力本願であり、極めて用意周到で優秀な周りの同級生達に縋ってばかりの私だが、これからは違う。残された数ヶ月間、この重役を果たすと共に、一緒に山を楽しむ人達に恩返しができるかと切に願う。

最後に、計画から始まった数ヶ月にわたるこの夏山合宿を共に完成させてくれた部長や、男女副部長を始めとした部員、アドバイスを下さった先輩方や OB・OG の方々、そして 3 名の先生方には感謝してもらえない。ありがとうございました。

【坂本千晃】(2 年男子副部長)

8 月 7 日から 8 月 11 日までに及ぶ 4 泊 5 日の山行、振り返ってみればとても大変で、でもとても楽しいものだった。そんな夏山合宿で私はふたつの感動を得た。

まず 1 つ目は「景色への感動」だ。今年の夏、台風や雨が心配される中での山行であったが奇跡的に 5 日間快晴が続き、一日中様々な山を見ることができた。特に印象が残っているのは鷺羽岳だろう。1 時間にも及ぶ急な道を登らなければならず私自身も鷺羽岳登山が 3 日目後半だったということもあってかなり足に疲労がきており辛かった。だがその辛さの先

に待っていたのは 360 度絶景の景色。北西に見えた槍ヶ岳の迫力は言葉で言い表せないほど綺麗であった。その時コーチとして来ていただいた先生が「この景色を記憶するだけでなく、この感動を記憶するために写真を撮れ」と仰っていたのは今でも心に残っている。この山を登っているときの景色の美しさ、辛さ、疲れ、登った時の感動、全てが写真に映し出されているのだと私は思う。

もう 1 つの感動は「仲間への感動」だ。私は今回の山行のペースメーカー兼読図として B 隊を歩かせてもらった。自分の中ではいくつかミスがあったり、隊全体での情報伝達は上手くいかなかったことが少しあったりはしたもののしっかり仕事をこなすことができたのではないかと感じている。そのような役割のなかで私は休憩中に同じ隊の人達に「ペースは大丈夫か?」や「体調は大丈夫か?」と伺う機会がいくつかあったのだがその時、後輩が「先輩、俺、山楽しいです。」と言ってくれた。私はこの言葉への感動が未だに心に残っている。きっと先輩という立場は後輩を支えるだけでなく、後輩に山の楽しさを伝える義務があるのだろう。

この世代の山岳部で山に行けて本当に良かった。何より、たくさんの感動と教訓をえる得ることができた。もう同じメンバーで夏山合宿をすることはできないが、今回得たことをこれからの受験や就職、人生に活かしていこうと思う。



黒部川源流にて休憩

【影山 夏希】(2 年女子副部長)

「終わってしまった。」北アルプスでの 5 日間を終えて北高に帰ってきたとき、そう感じた自分に戸惑った。家に帰れる嬉しさよりも、山行が終わってしまう寂しさが勝っている。夏山の前には想像もしなかったことだ。あれだけ不安だった夏山を楽しめたことと、終わりが寂しいと感じている自分に驚いた。

去年の夏山が 2 泊 3 日だったこともあり、今回の夏山合宿は今まで私たちが経験した中で最も長い山行だった。体力的・精神的に 4 泊 5 日に耐えられるのか、2 年生としての役目を果たせるのか、不安は尽きなかった。

準備期間から夏山が終わるまでを振り返ると、反省点はたくさんある。

隊のリーダーを任せてもらったにもかかわらず結局他の人を頼ってしまったこと、買い出しに必要な食材を買い忘れて当日配布になってしまったこと、先輩として1年生をあまりサポートできなかったこと、など。

どうしてそうなってしまったのかを考え、これからの山行のために解決策を探していきたい。

上に書いたようにうまくいかなかったことや大変なことも多かったが、今回の夏山は私にとって良い意味で想像と違うものだった。特に未知の領域だった3日目や4日目には「辛い、疲れた、帰りたい」という感情が脳内を占めるのではないかと心配していたが、実際には全くそんなことはなかった。山岳部の仲間がそばにいて、同じ景色を見ている。それだけで心強く感じ、自分が過ごしている時間はかけがえのないものだと思えた。星空も、お花畑も、夕焼けの空を映す双六池も、1人だったらきっとあれほど綺麗には見えなかった。飽きるほど人狼ゲームをしたことも、コーチのお誕生日をお祝いしたことも、寝る前に棒ラーメンを作って食べたことも、全部みんながいたから作れた思い出だ。

山岳部に入ってよかった。本当にそう思う。

最後に、終わるのが寂しいと思えるほどに夏山を楽しめたのは、山岳部の仲間、引率して下さった先生方やコーチ、卒業生の方々、いつも支えてくれる家族など、本当にたくさんの人のおかげです。ありがとうございました。

【井上 怜】(2年)

今回の夏山の舞台は北アルプス！去年の南アルプスとは違い、人が多く、高低差が大きいこともあり精神・体力的に疲労困憊となりました。今年は薬師岳のピストンを断念することにはなりましたが、4泊5日山岳部全員で協力して無事に山行を終えることができたことは、とてもいい思い出になりました。

今回の夏山は今までで一番楽しい登山であり、思い出もたくさん残りました。その中でも私が一番思い出に残ったことは、4日目の薬師峠キャンプ場での出来事です。薬師峠キャンプ場には多くの登山客がいて、テント場を確保するのがやっとなほどで、炊事を班ごとでできるスペースがありませんでした。そんなときに、2年生で全員分協力して作りました。何故思い出に残っているのかというと、2年全員が別々の作業をしていても、全員が1年生のために作

ろうという思いが感じられたからです。厳しい環境の中でも互いに協力していたことがいまでも鮮明に蘇ってきます。また、1年生が2年生の助けになりたいと片付けをやりたいということを聞いたときには、涙が出そうでした。

このような仲間たちを持てたことはとてもうれしく、山岳部を選んでよかったことを改めて実感させられました。

最後の夏山であり、後輩がいる中での初めての長期間の山であった今回の山では、満足の行く仕事をこなせたと思います。山行中では、読図長として隊のみんなの様子を見ながら、ペースを作れたと思います。道を間違えるなどの目立ったミスもなく、安全にみんなを誘導できたと思います。1年前の夏山では、自分が読図をやるとは思ってもいなかったし、読図をしている先輩達を見て、私にとって右も左もわからない山の中をよく歩けるな—とっていました。そんな先輩たちがすごく立派でかっこよく、そこから少しずつ読図というものに関心を持ちました。実際やってみると難しいけど楽しく、山に行くたびに自分が地図上でどこにいるかわかるし、山の地形・環境・キツさなどもわかるようになってきました。鍛えてきた読図力を最大の山場である夏山で出すことができたと思います。炊事では積極的に動いたり多くの人とコミュニケーションをとったりして、楽しみながら自分の最大限の力を出してみんなに貢献できたと思います。

思い出や満足点がある中で反省点もあります。それはいろいろな人に頼り、助けてもらったことです。夏山4日目に体調が悪く、他の人に読図を任せてしまい迷惑をかけてしまいました。また、不足している物を友だちに借りたりもしました。そういう未熟な部分を減らしなくせるように、これからの日々の練習・生活態度に気をつけていきたいです。

夏山が終わり、私達が登る山もカウントダウンが始まってきました。あと少ししかこの最高の仲間たちと山に登ることができませんが、残り僅かな山を楽しみたいです。今までの山行だけでも十分満足のできるものでもあります。より思い出に残る山行&部活にしていきたいです。



薬師峠キャンプ場にて

ボトフを作る2年生

【白澤 里々咲】(2年)

夏山に行く前は本当に不安でした。個人的に練習不足を感じていたことや、昨年途中下山となってしまうため5日間の夏山を経験していなかったからです。今年は後輩もいるため、余計不安でした。しかし、山に行ってみると考えが変わりました。南アルプスとはまた違う素晴らしい景色。天気にも恵まれ、本当に来てよかったと思いました。5日間が本当にあっという間でした。

しかし、反省点も見つかりました。合宿中に何回も考えていましたが、果たして自分は2年生らしい行動ができていたのだろうか、ということです。実際に3日目に体調不良者が出ましたが、自分は荷物が多く体力に余裕がある訳ではなかったため荷物を持ってあげられませんでした。今でも後悔しています。荷物を持ってあげれるような体力、パッキング力をつけていきたいです。装備としてはテントが立てられないなど、大きな問題はなく本当に良かったです。しかし、ロープの準備が当日になってしまい朝大忙しだったので次回からは改めたいです。

また、私が楽しく夏山に行けたのは周りの支えがあってこそだということを実感しました。休憩中のコミュニケーションや、炊事は本当に楽しく、登山中もちろん本当に楽しかったですが、リラックス出来る時間を充実出来たのは周りの人のおかげです。

OG、OBの方ともたくさんお話することができ、豊富な知識や過去の登山のお話を聞かせていただきました。どれもとても貴重なお話で特別な経験になりました。

人生でこのような素晴らしい山に登れる経験は何度もできないことだと思います。その数少ない経験を、素晴らしい思い出として成功でき、大怪我をする人がなく全員無事で帰れたことを本当に嬉しく思います。

改めて夏山に関わってくださった先生方、山岳部のみんな、OB、OGの先輩方、保護者の皆さん、素晴らしい夏山を本当にありがとうございます。残り少ない山岳部での活動を楽しみたいです。



双六小屋キャンプ場にて

【國武 優希】(2年)

今年の夏山合宿は、去年とは全く違ったものになりました。私にとって、去年よりも山を好きになれた合宿であったように思います。

自分自身の山行の仕方を振り返ると、成長したと思える点も、反省すべき点も多くあります。

余裕ができたことが私の中で大きく成長した点の一つです。「余裕ができた」と感じた理由の一つは、純粋に山を楽しめたことです。去年は辛いとしか感じなかった登り坂、今年は「辛い」よりも、「楽しい」が上回っていたと思います。一步一步、次はどこに足を置こうと考えながら登るのは面白かったし、何よりも進むごとに少しずつ変化していく周りの景色にワクワクしていました。これは、山に登る回数を重ねてついた体力の賜物だと思います。

反省点は、地形図を見ながら登らなかったことです。私は山行中ほとんど地形図を見ませんでした。登れば良いから、先頭に任せてしまおうという気持ちがありました。しかし、OGの方が、地形図を見ながら山に登ることに楽しみを見いだせるとおっしゃいました。私はそのことに今まで全く気づいていませんでした。さらに、そもそも読図ができなければ将来一人で山に登ることはできません。現状に甘えず、自分で読図を正確にできるようになって、山での楽しみ方の幅を広げたいです。

合宿では、山を見つめ直す時間も多有りました。私の中で一つ気づいたことは、長い山行で飽きることがほとんどないのは、山がその様相を多様に変化させるからだということです。すべて自然の中でできた山の作りには一部として同じ部分はありませんでした。いつか世界の山に登って、日本とはまた違った環境でできた山の作りも見たいと少し思いました。また、北アルプスの植生が本当に美しかったことも、登山者を山に飽きさせない要因だと思います。大切に保護された植物はそれだけきれいであることを実感しました。

山を好きになることは、山に登る者としていちばん大事なことだと思います。高校生活最後の夏山合宿で、その大事なことを達成できたのは大きいと感じています。

これからも、楽しみの幅を広げていきつつ、まだまだ山に登っていきたいです。



鏡平小屋にて

【山奎一颯】(2年)

僕は夏山が本当に憂鬱だった。

ここまで山岳部として活動してきて恥ずかしいことだが登山の楽しさを掴めずにいた。荷物は重いしテントは狭いし…。と4泊5日の行程を前にしてかなり嫌気がしていた。不安と怠さでいっぱいだった。実際の北アルプスはあらゆる意味で想像以上だった。

初日からテントの暑さと狭さで参ってしまい、2日目の行動でバテてしまった。2年のくせに人に荷物を持ってもらい、前を歩かせてもらった。その時はほんとに恥ずかしくて屈辱に感じた。体調も優れず山行に来たことを何度も後悔していた。山道で登山客とすれ違ったときは「この人たちは何が嬉しくて(おそらく何度も)山に来ているんだろう」と疑問を感じていた。それだけ心身ともに弱気になってしまっていた。

3日目になってその鬱憤とした気分が一転した。その日は双六岳から尾根線に沿って次々と山頂を制覇した。そこからの眺望は余りにも美しすぎた。山頂の手前は天空の滑走路と呼ばれるなだらかで広大な斜面があり青々と輝いていた。東側を見通すと槍ヶ岳の山頂が快晴の青空に伸びていた。日本にこんな景色があるのかと興奮した。3日目4日目の行動と幕営も相変わらずしんどかったがなんとかやりきる事ができた。

4日目の夜は最終夜ということで割と遅くまで2年生で集まっていた。みんなでラーメンを作りながら色々話をした。いつも顔を合わせている仲間だけど山で話していると不思議な信頼感と包容感があつた。たわいのない話がとても楽しかった。本当に本当に楽しかった。思えばここまで歩いてこれたのはこの仲間が居るからだだった。みんな物事に一生懸命に取り組み他の人を引っ張っていく優しさと強さがある。密かに思い出を振り返っていると胸がいっぱいになった。普段は照れくさくて言えたものではないが僕はこの仲間達が大好きだ。何度彼ら彼女らに救われたか分からない。直接言う勇気は持ち合わせてないのでここに書いておく。

また、この素敵な仲間に会わせてくれた山岳部ひいては山にも感謝している。山と仲間に「ありがとう」。

今も山行には不安も多いが、山は山にしか無い魅力があると知れた。僕なりの山の楽しみ方を追いかけてみたいと思った今回の夏山だった。

【岡田 侍英】(2年)

私は夏山に出発する前、去年の夏山を思い起こしました。予期せぬ事態によって、二泊で下山、不完全燃焼に終わってしまい、とても悔しい思いをした、、、と、言いたいところですが、正直に言えば、安堵の気持ちのほうが大きかったように思えます。途中で終わってしまったとはいえ、二泊での山行は普段一泊の山行が多い私達にとって、精神的にも、身体的にも、大きな負荷がかかるものでした。そのため、今年の夏山出発前は、(今年は後輩も連れて)四泊もの行程を乗り越えることができるのか、不安を感じていました。ですが、一年の時を経て、部員全員が、人間関係、体力、技術等様々な面において成長できた。このことだけには自信がありました。そして、夏山が終わり、この自信は、さらに確固たるものになったように感じます。

振り返ると、概して、今回の夏山は成功したと言えるのではないのでしょうか。天候にも恵まれ、大きな怪我、病気等もなく全行程を終えることができました。また、バテてしまった一年生の荷物を持ったり、テント場での過ごし方など、全員が自分のことだけでなく、後輩や他の登山者などのことを考えたりすることができました。登山中も余裕ができ、より景色やコミュニケーションを楽しめたように感じます。私は医療班として、部員が体調不良の際、何をすべきかの確に考え、かつ素早く行動できました。しかし、反省点として、隊員へのこまめな健康観察や、未然に怪我を防ぐための声掛けが足りていませんでした。反省点を今後に活かしてこそ夏山です。まだ山行はあるので、これらのことを意識し、改善していきたいと思います。

最後にはなりますが、無事に夏山の全行程を終えるありがたみを知っているからこそ、協力してくださった先生方、佐々木コーチ、OB、OG、北登会の方々に深く感謝いたします。

本当にありがとうございました。



折立にて

【古田 煌登】(1年)

北アルプスでの4泊5日。山岳部で一番大きなイベントである夏山合宿は、僕が山岳部への入部を

決めた理由の一つでもあり、これまでずっと楽しみにしてきました。反面、今までにない長い行程に体力が最後まで持つだろうかとの不安もありました。しかし、いざ始まると、北アルプスの絶景の数々に目を奪われ、疲れを感じる間もありませんでした。360° 広がる大パノラマ、満天の星空、ライチョウとの出会い。大自然と直に触れ合い、今まで以上に山が好きになったのは言うまでもありません。山岳部に入って本当に良かったと思いました。鷲羽岳の登り等、きつく感じた場面もありましたが、それらを乗り越えられたことは一つ自信になりました。

一方で、課題も残りました。今振り返ると山行中、僕は先輩方に頼ってばかりだったように感じます。読図が全然出来ず、ほとんど前についていくだけになってしまいました。炊事でもあまり活躍できませんでした。さらに、3日目に体調を崩し、隊の皆さんの進行を遅らせ、迷惑をかけてしまいました。僕が事前準備や下調べをもっと念入りに行い、こまめに体温調節をしていれば防げていたかもしれないと反省しています。この反省を今後に必ず生かしたいです。

そしてこの5日間を通して僕が最も強く感じたことは、支え合うことの大切さです。僕が山で体調を崩した時、同級生、先輩、先生、そしてOB、OGの方々まで、隊を超えて大勢の人が僕を支えて下さいました。3日目から最終日にかけて体調の優れない状態が続きましたが、先輩方に荷物を分担して頂いたり、何度も優しい言葉を掛けて頂いたりして、本当に心強く安心して登山を続けられました。山行後も体調を気にかけて下さり、感謝の気持ちでいっぱいになりました。

来年は後輩を引っ張っていく立場になるため、今回自分がして頂いたことを逆に自分がお返し出来る存在になりたいです。そのため、今後は山の知識や体力をつけることはもちろん、余裕をもって山行に臨めるよう日々努力したいです。一つ一つの山行の中で自分から意識して積極的に動くことで、自分自身を成長させていきたいと思います。

【鈴木 惺太】(1年)

夏山合宿、それは僕の高校生活の1ページです。山岳部において最も過酷で、最もやりがいのある活動と言えます。そして、日常生活では決して気づかないような多くのことを学びます。5日間を山で過ごし、

3つのことに気付かされました。

1つ目は、自然の素晴らしさです。北アルプスに行くのは今回の合宿が初めてで、どんな景色が見られるか楽しみにしていました。実際に見られた景色はどれも壮大で日本にこれだけ立派な景色があるのだと驚きました。山々が連なる姿、川の上流のきれいな水などを見ることができ、自然の力強さや美しさを感じられて、とても穏やかな気持ちになりました。

2つ目は、友情です。山では、仲間と過ごす時間がとても長く、共に歩いたり、炊事をしたり、テントで寝たりするうちに自然と仲良くなれました。中学時代の部活は個人での活動が中心で、仲間を感じることはほとんどありませんでした。しかし、山では仲間との協力無しに何かを成し遂げることはできないでしょう。仲間と協力することの楽しさを実感できました。

3つ目は、日常生活の便利さ、快適さです。人々は普段当たり前のようにスマートフォンを使っています。山ではインターネットが利用できず、情報が簡単に手に入れないことで不便さを感じました。しかし、デジタルデトックスをする良い機会になりました。スマートフォンを使わないことに豊かさを感じ、今後のスマートフォンの使い方を見直したいと思いました。また、自宅では自分のことばかりで家族のために貢献することができていません。山では、炊事やテント設営などすべきことが多く、いかに自分が家で行動できていないのか実感しました。実際、炊事を通して調理の面白さを知りました。たまには、自分で家族に料理を作ってあげたいと思います。

夏山合宿は、自分を見直すきっかけになりました。これからの人生において、合宿の思い出が生きるための糧になっていくと思います。

【松井 聡】(1年)

今回の夏山では隊の一員であるという自覚を持って臨むことができたと思います。夏山以前の山行では、慣れないことが多かったため自分のことで精一杯になってしまい、それ以外のことをすべて先輩方に任せてしまっていました。しかし山行に慣れた今、四泊五日という期間の中で先輩の姿からや、自分で試行錯誤する中でたくさんのことを学ぶことができました。休憩中に地図で自分たちの場所を確認したり、炊事の際に米炊きをしたりするなど、これまで先輩がしていたことを体験しました。その中で気が

つuitたのは、山という日常生活と乖離した環境の中で、自分のことに集中しながら十人規模の隊全体に気を配ることの大変さです。山行の中でこのことを強く実感し、また、先輩達の姿から山が一年でどれほど人を成長させるか知ることができました。

夏山合宿では全てのことが自分にとっては新鮮で、それと同時にそれらを楽しむこともできました。そもそも四泊五日という長い期間の山行は初めてで、一日一日の疲労もこれまでとは全く違うものでした。特に三日目の鷲羽岳や四日目の急な下りとはとても大変で、正直歩いているときは周りを見る余裕はなく、常にきついと感じていました。しかし大変な思いをした後で見る山頂からの景色は達成感も相まってとてもきれいに見えました。それ以前の疲れを忘れ、登って良かったと心の底から思うことができる。これが山に登ることの良さだと思います。

今回本当に多くのことを学び、とても貴重な経験となりました。しかし先輩たちと比べるとまだまだ劣っている部分が多く、来年は自分たちがリーダーとして引っ張っていく立場になることを考えると、まだまだ課題や学ばなければならないことは多くありますが、これからの山行を通し、足りない部分を補っていきたいと思います。そして来年入ってくる後輩に良い手本を示せるよう、日々の練習から真面目に取り組んでいきたいと感じました。

【山下 颯】(1年)

7月に体調不良が重なってしまい、私はテント泊と登山の経験が足りない状態で8月の夏山を迎えました。そのため、体力面でも生活面でも4泊5日を持ち越えられるのか心配が多かったです。しかし、身体的疲労が溜まっても精神的疲労はほぼ無く、何処までも行けるんじゃないかと思う程、不安が自然と楽しさに変わって、5日間の原動力になりました。そして、その楽しさは色々な人との会話を通して生まれたものだと思います。

特に中学時代、部活動に所属しなかった私にとって、先輩方と会話が出来ることは新鮮で、家以外で寝るのが苦手な私がテント泊を少し好きになれたのも、きつい山行で次の休憩まで頑張れた理由も、先輩方の存在があったからです。本当に感謝しています。すれ違う登山客の方々や山荘の方々との挨拶でも、「頑張ってるね」と声を掛けて頂けた時はとても暖かい気持ちになりました。

また、写真好きの私にとって山から見える景色の移り変わりはどれも撮りたくなるもので、山頂から見える景色を想像することが体を動かすモチベーションに繋がっていたと思います。

このように登山の楽しさを作れた反面、自分のことに集中し過ぎて周りを見ることができず、人に任せてばかりだった反省点もあります。この経験から、来年は先輩方がして下さった事を、後輩に返して、山岳部の良さを感じてもらえるよう、残りの山行でも必要な事や足りない事を学んでいきたいです。

夏山を計画して下さった先輩、先生方、沢山助けてくださったOG、OBの方、支えてくれた両親、その他関わってくださった方々、本当にありがとうございました。

【神村 灯士】(1年)

夏山合宿、振り返ってみれば意外と早

かった。早く感じたのは、充実し、楽しい合宿だったからだ。ある程度標高が高くなると景色は絶景だった。見渡す限り山が連なっていて、この景色を見るために登ってきたのだなと思えた。一步一步はすごく小さいけれど、何時間も歩き続ければこんなにも高い山に登れるんだなとわかった。まさに千里の道も一歩から。自分は先輩の姿にすごく驚かされた。歩行時間が長く疲れているはずなのに、疲れを一切見せず、手際よく炊事をし、出来上がったご飯をよそってくれるなどしてくれた。山では団体行動が基本である。だから、助け合いをしなければならない。山に登りきる事をゴールとせず、余裕のある体力を持って、周りを見渡せるようになっていきたい。

夏山合宿を怪我なく終えられたということが何よりだ。山で自分のことをケアすることの重要性を改めて感じた。夜テントで、痛みそうなところに湿布を貼ったり、自分で全身をマッサージしたりした。おかげで翌日筋肉痛もなく、痛いところもないという万全な状態で挑むことができた。少しの痛みであっても長時間歩行となると段々酷くなるので、今後自分ケアする時間を取ろうとおもう。

高校を卒業してしまったら、団体で山に行くということはほとんどなくなる。おそらくソロ登山がメインとなるだろう。だからこそ、山岳部の仲間たちと山に登れることの貴重さというものを大切にしてい



サポートして下さった学生OBOGの皆さん

いきたい。まだ一年生であるとはいえ、山行の回数はどんどん減ってきている。一回一回の山を存分に楽しみ、充実したものにしていきたい。

自分たちが山に登れるのは、引率してくれる先生たちやOB,OGの方達、お金を出してくれる家族があるからである。山岳部員として感謝を忘れないでいきたい。今回の夏山合宿もありありがとうございました。

最後に、佐々木先生お誕生日おめでとうございます。

【北登会行事報告】

【C35-2 山行】 黒姫山(2053m) 2023/9/23

天気予報が外れ、黒姫山は局所的に霧の中。下山直後から雨が降ってきました。ブナの原生林を楽しみな



黒姫山山頂にて

がら往復7時間歩きました。35,000歩コースでした。今回は戸隠キャンプ場をベースにアタックしました。展望が楽しめなかったので、また行きたいと思います。

参加者 堀(35)、鈴木克(36)

【C35-3 山行】 常光寺山(1439m) 2023/11/23

天気も良く風もなく気持ち良い山行でした。1000m超えは紅葉は終わっていましたが、落ち葉の絨毯を踏みしめて歩いてきました。当初の計画を変更して、山住峠から往復4時間でした。

参加者 高林(25回)、鈴木克(36回)、鈴木貴(48回)、大澄(51回)



常光寺山山頂にて

右から大澄、鈴木貴、高林、鈴木

【C35-4 山行】 秋葉山初詣 2024/1/3

雨が心配でしたが、富士山も拝むことができ、パワースポットの上社の金の鳥居越しの天竜川を眺め、下山後は下社もお参りしてたい焼きを食べて帰りました。鈴木克(36回)、鈴木貴(48回)、岩倉(48回)、ビジター8名



【C36-1 山行】朝鮮岩、満観峰 2024/5/19

安倍川駅集合で朝鮮岩→丸子富士→満観峰→日本坂峠→用宗みなと温泉→用宗駅 心配していた雨も時々ばらつく程度で、レインコートは未使用。富士山はシルエットが拝める程度でした。日本坂峠まで足を伸ばし、用宗方面に下山。下山後はお約束の温泉と生ビールで充電して帰りました。



参加者 堀(35回)、鈴木克(36回)

その他交流イベント

【スノーシュー体験ツアー】 2024/2/10

茶臼山高原スキー場方面は雪が少ないので、2/5に大雪だった富士五湖方面に変更。スノーシューの気持ちよさが楽しめました。天気にも恵まれ、富士山、富士四湖も綺麗でした。参加者 竹林(73回)、野口(73回)、鈴木克(36回)



足和田山山頂から富士山を望む



西湖も綺麗でした

【北登会行事案内】

[家族園遊会]

日程:2024.10.5(土)13:00 現地集合、宿泊・キャンプ可

会場:須山建設海の家(三ヶ日町都筑 926)佐久米海岸沿い

会費:大人 1,000 円/人、小学生以下無料

テント1張 1,000 円、布団1組 1,000 円

申込み:9/30までに参加人数、日帰り・宿泊・キャンプの別を含め事務局高林または会長鈴木へ連絡ください。

その他:・宿泊、キャンプの方は夕食、朝食食材等を持参願います。
・サイクリング、釣りなど道具持参で遊べます

【C36-2 山行】 三方分山(1422m)

山梨県精進湖畔の山に登ります。天気良ければ大室山を抱いたような絶景の子抱富士を拝めます。(コースタイム 4:20)

日程:2024.11.10(日)

集合:適宜調整し自家用車乗り合わせで行きます。

①11/10 7:00 スヤマビルド集合

②11/10 9:00 現地集合(県営精進湖他手合浜駐車場)

③11/9 前泊希望(本栖湖キャンプ場予定)

会費:交通費 車毎に割勘

[新年会]

日程:2025.1.25(土) 18:00～

会場:「なの蔵」 浜松市中央区田町329-18

会費:6,000 円程度

●返信はがきは概ね 3 週間前までに投函して下さい。

①園遊会 9/30 締切

②三方分山 10/30 締切

出欠にかかわらず、近況報告を兼ね必ず返信願います。

●北登会行事関係問合せ先

事務局: 高林 090-5458-5229

hirosi.takabayasi@suyama-group.co.jp

事業担当: 鈴木 090-7698-1144

katsumi_hamakita@yahoo.co.jp

【北登会交流イベント】

北登会の目的でもある会員の親睦を図るため、

様々なオプションイベントも取り組みます。

※興味のある方は、鈴木克巳までご連絡ください。

[忘年会ハイキング] 湖西連峰

日程:2024.11.30(土)

集合:8:30JR新所原駅、9:30 梅田親水公園 P

※天気良ければ、浜名湖越の富士山が拝めます。

※友人家族参加大歓迎

※ 希望者は下山後浜松駅周辺にてゆるい忘年会

[初詣ハイキング] 秋葉山(885m) 上社下社

日程:2025.1.3(金)

集合:9:00 下社前駐車場

[スノーシュー体験]

日程:①2025.1.11(土)奥三河か南信

②2025.2.11(祝)茶臼山高原方面または富士五湖方面

③2025.3.8(土)北八ヶ岳または入笠山方面

集合:7:00 サンスト浜北 P

[お花見ハイキング]

日程:2025.3.30(日)9:00 現地集合

会場:竜ヶ石山(竜ヶ岩洞)または尉ヶ峰

※北登会行事及び交流イベントの最新情報は、
随時北登会 HP 掲示板及び北登会 FB(フェイスブック)にて
お知らせいたします。

○事務局活動報告

2/22 部活動後援会常任理事会 1 名

3/4 北登会役員会 8 名

4/9 行事案内、会費納入依頼封入

4/11 行事案内発送

4/25 部活動後援会理事会 3 名

5/13 部活動後援会総会(欠席委任状)

6/26 部活動後援会懇親会(コンコルド)4 名

※北高部活動後援会に OB 会費として

毎年 20,000 円を納めております。

8/上旬～会報編集作業

9/上旬 返信ハガキ、宛名ラベル等印刷作業

9/中旬 会報封入発送作業

○北登会関係訃報(2023 年夏以降事務局把握分)

8/11 大石博司様(7 回卒)

【ともしび通信】

2023 年夏以降の北登会フェイスブックなどから転載させて頂きました。誌面の都合上、全ての投稿を掲載していませんがご了承ください。

青野ダイチ(13 回)

7 月 13 日から 15 日にかけて、60 年来の山友達 I 君と北アルプスの唐松岳に行ってきました。あいにく梅雨の雨が上がることなく、三日間

とも雨具着っぱなしでの行動でしたが、唐松岳の頂上に登ること、美しい高山植物を堪能することはできました。ただ、体力は年相応(80)に衰えており、1000m の高度差の往復は応えました。(20230716 投稿)

不帰の剣の岩峰



山口 靖(26 回)

天気が良さそうだったので、八ヶ岳の天狗岳(標高 2646 m)を日帰りで登ってきた。目論見通りに快晴微風で、八ヶ岳連峰は勿論、南・中央・北アルプス、御岳山、

乗鞍岳、浅間山などを展望できた。(20231013 投稿)



西天狗山頂から南八ヶ岳連峰(硫黄岳、横岳、赤岳、阿弥陀岳など)を望む

栗山章子(49 回)

小3 長男と小2 次男と秋葉山トレイルへ来月藤枝トレラン出るのに2 人とも全く走ってないから練習がてら私は体力無い次男に合わせて登って、途中休んだりしながらで、長男は1 人先に登って上で20 分くらい待ったみたいだけど、それでも富士山や紅葉も楽しみながら1 時間半弱で下社から上社まで上がれました。

上で甘酒やお団子食べて、お参りおみくじ引いて小休憩。下りは50 分弱で下り、程良い疲れでいい運動でした。男子2 人にこれからも時々山登り、付き合ってもらおう!(20231123 投稿)



山口 靖(26 回)

今日は朝から快晴。好天に誘われて「山と溪谷」の「全国駅からハイキング100」に載っていた継鹿尾山（つがおさん；273 m）を登ってきた。午前11 時頃に自宅を出て、名鉄犬山遊園駅から寂光院経由で山頂まで登り約1 時間、降りは善師野駅まで約40 分とお手軽なハイキングコース。寂光院本堂や山頂からは濃尾平野や伊吹山・鈴鹿山脈などが一望でき、さらに善師野駅へ向かう尾根道からは御岳山や中央アルプスを望めて、気持ちの良い低山ハイキングを楽しんだ。出張用に買ったハイキングシューズが役に立った。

(20231213 投稿)



岐阜市街や各務原飛行場、伊吹山などが見える。継鹿尾山山頂からの眺望

鈴木貴晴(48 回)

北アルプス表銀座へ
今年はずっとより稜線の雪解け進んでる



鈴木克巳(36 回)

5/5 に愛知県民の森に行ってきました。
シャクナゲはピーク過ぎでしたが、まだきれいに咲いている株もありました。獅子岩に行こうかと迷いましたが、百畳岩をおりてみました。C 山行の候補にしたいと思います。

愛知県民の森は岩あり花あり紅葉ありで一年中楽しめるエリアです。（20240507 投稿）



ホソバシャクナゲがキレイでした。



百畳岩を少し下っても、まだまだ続く一尾根一枚岩のようです。

栗山章子(49 回)

野辺山トレイル、42 キロ、人生初フルマラソン行ってきました！2 月に疲労骨折をして2 ヶ月走れず、1 週間前には風邪を引いて、万全の体調ではない中、高校山岳部からの親友ちーちゃんと一緒に参加ということで心強く、とにかく楽しんで完走を目指そう！と挑みました。

気候も良く山も気持ち良く、エイドも全制覇して楽しんで、運良く42 キロ女子で5 位入賞。アップダウンが多いコースだったから、次はサブ4 の目標も出来ました。

とにかく楽しく怪我なく走れて、凄く達成感です。一緒に行ってくれたちーちゃんありがとー、また来年も一緒に出たいな。（20240519 投稿）



鶴見敏明(25 回)

雨飾山 花巡り
かねてから気になっていた雨飾山に同期の松岡敏彦君と登りました。花の写真を撮りながら往復10 時間。へろへろでした。

(20240626 投稿)



シラネアオイ



標高差700m 超はなかなかでした

鶴見敏明(25 回)

梅雨の晴れ間の
鳳来寺山ハイク
(20240709 投稿)



高柳淳人(49 回)

2 週間前のサロマのダメージ残る中…行ってきました
大雪山トレイルジャーニー 60km。

朝 4 時に旧北大雪スキー場をスタート !ウォーミングア
ップで 15km の平原アップダウン後にいよいよ山岳エリ
ア突入！最終兵器のストックを手に入れ急登は絶好調。

しかし下りでやはり懸念していたサロマのダメージが。
膝が悲鳴を上げ始め、大雪トレイル名物の植生保護のため
の歩行区間前に林道を下り切った 35km 地点のエイド以降
は自主歩行区間。

天気には恵まれ、今まででイチ
バンの絶景を楽しみながら
約 12 時間半でゴール！
…しかし最後のスキー場の下り
は拷問としか思えない膝痛との
闘いでした。しばらくお休みに
して、次は白旗山トレイル辺りから
のんびり再始動します。

(20240715 投稿)



堀 秀人(35 回)

先週に引き続き
入笠湿原にいこう
と富士見パノラマ
に行ったんですが、
バイクのダウンヒ
ルの大会があって



駐車場に入れず。。。諦めて北八ヶ岳へ。

ロープウェイで一気に登って散策 w

涼しい！良いタイミングで雨が降って来たけどほぼ濡れ
ずに戻ってこれました。お宿は諏訪湖の畔の朱白さん。

ウェルカムドリンクが最高でした。

(20240727 投稿)

山口 靖(26 回)

飯豊連峰に登
ってきた。1 日目
は名古屋から東
京・米沢経由で小
国まで行き天狗
平ロジ泊。2 日



目は梶川尾根を登って北股岳を越え梅花皮小屋へ。3 日
目は烏帽子岳・御西岳などを縦走して飯豊山に登頂し切
合小屋泊。4 日目は川入へ下山して山都・会津若松・郡
山・東京経由で帰ってきた。登山口までのアクセスは、
北アルプスなどと比べると良くない。

実は学生時代の 1974 年秋に朝日連峰を一人で縦走し、
次は飯豊連峰だと意気込んでいたのだが、実現するのに
50 年掛かってしまった。今回登ってみて体力的には限界
に近かったので、今年思い切って登って良かったと思う。

なお食事は、切合小屋しか提供しておらず、シュラフ
も持って行く必要があったため、荷物の軽量化に知恵を
絞った。

飯豊連峰は、標高 2000 m 程なのに谷が深く、稜線ま
での登りは厳しい。それでも稜線に出しまえば、ゆっ
たりとした山容の山々が続き、広々としたお花畑に高山
植物が咲き誇っていた。今回は、飯豊山地固有種のイイ
デリンドウも見られた。また豪雪地帯なので雪渓が残っ
ていたし、梅花皮小屋では遠くに熊の姿を見ることもで
きて、充実した 3 泊 4 日の山旅だった。

(20240806 投稿)



【北高山岳部サポート情報】

北登会では2人の顧問で1・2年生28名の大所帯の北高山岳部支援を重点的に取り組んでいます。装備の充実や山行、合宿のサポート参加、差入など重点的に行っています。サポート参加してくれる大学生OBも支援しています。

●9月月例山行 ハヶ岳 2023.9.8-10

9/8ー10で北高山岳部のハヶ岳合宿にサポート参加してきました。生徒22名に対して顧問が2名、北登会サポートは36回鈴木克巳と75回鈴木豪太君の2名です。行動食に下山後のポカ리를差し入れしてきました。



天気が良かったので最高の展望でした。夏山合宿が3日で打ち切りとなったので、リベンジ合宿となりました。



●11月月例山行 甲武信岳 2023.11.18-19

大学生OBの鈴木豪太君(75回)がサポート参加してくれました。寒気が降りてきて、雪が降ってー10度まで気温が下がったとのこと。簡易アイゼンも用意して行ったとのこと無事に下山できたようです。



●湖西連峰歩荷競走 2023.12.9

サポート 堀(35回)、鈴木克(36回)、影山(45回)

●スキー合宿 2023.12.23-25

長野県飯山市戸狩温泉スキー場でスキー合宿生徒24名、大学生2名、顧問2名の28名参加。

土曜日午後に到着し野沢温泉で足慣らし。日曜日は戸狩温泉スキー場がオープンしたので一日中沢山滑りました。月曜日は半日滑り、昼食後浜松に出発しました。1年生の初心者も全員滑れるようになりました。

北登会からは鈴木克巳が現地支援、初心者指導でサポートしてきました。

技術サポート 鈴木克(36回)

同行 鈴木豪太(75回)、鈴木瑛斗(74回)



●宇連山月例山行 2024.6.8

6/8北高山岳部月例山行 宇連山に35回堀さんと36回鈴木でサポート参加してきました。

1年生は初めての歩荷山行で大変でしたが、夏山合宿に向けて、長距離長時間の訓練となりました。

山頂では45回影山さんのサプライズデザート差入れがあり、元気回復できました。



●富士山宝永山 2024.7.6

7/6 に北高山岳部の富士山宝永山山行にサポート参加してきました。35 回堀さん、36 回鈴木克巳、48 回鈴木貴晴、49 回栗山章子の 4 名です

今年は天候に恵まれ森林限界の世界を体験できました。夏山合宿まであと 1 山行。いろいろ課題が残っていますが、あと 1 ヶ月弱頑張ってください。



●瑞牆山、金峰山 2024.7.20-21

夏山合宿に向けた最終訓練山行でした。天気にも恵まれ、稜線歩きも体験。まだまだ課題が山積みですが、夏山合宿までに反省して勉強してリカバリーしてくれると思います。

サポート参加 鈴木克 (36 回)



●夏山合宿 北アルプス 2024.8.7-11

行程は、以下の通りです。

①新穂高温泉→ワサビ平小屋、②鏡平小屋→双六小屋、③双六岳→三俣蓮華岳→鷲羽岳→祖父岳→雲ノ平、④薬師沢小屋→薬師峠キャンプ場、⑤太郎平→折立

天気にも恵まれ 1～2 年生全員 28 名が無事歩き通すことができました。

顧問山口先生、柴田先生に加えて、外部コーチとして前顧問の佐々木先生、そして大学生 OBOG の北嶋嶺 (74 回)、永田怜音 (74 回)、佐治由洋 (76) 3 名がサポート参加してくれました。

北登会からもアミノ酸補助食品の差入と大学生への謝礼として図書カード 5,000 円分をお渡ししました。



編集後記
会報編集担当 岩倉万友美(48 回)

編集作業をしつつ、北高山岳部の皆さんによる夏山合宿感想文を読み入ってしまいました。

10 代の瑞々しい感性、自然の中で自分と対峙する姿に胸を打たれ、思わず涙が溢れました。

OBOG の皆さんが登山やトレイルランニングなどに楽しそうにチャレンジされている姿も、ともしび通信から活き活きと伝わってきました。

今回、会報の編集を任せていただき、正直なところ、16 ページにまとめることがこんなに大変とは思いませんでした (笑)。これまで会報を編集してきてくださった先輩方に改めて感謝です。

私自身は、個人ではなかなか山に行けていませんが、仕事の合間を縫って滝を見に行ったり、浜名湖をカヤックで漕いだりしています。自然の中に身を置くとほっとします。

会報を読んで、自然の中にでかけてみようと思ってくれる皆さんが思ってくだされれば嬉しいです。北登会行事へのご参加もお待ちしております！



第 38 期会計報告（2023 年 4 月 1 日～2024 年 3 月 31 日）

収入の部

入会金	0	
年会費	333,000	110 名（1 名は二年分）
雑収入	258	預金利息（基金利息を含む）
前期繰越金	489,245	
収入合計	822,503	

支出の部

総会費	9,170	
会議費	0	
通信費	89,076	行事案内、会報発送
事務備品費	51,016	封筒印刷他
渉外費	28,000	部活動後援会費
会報発行費	32,414	16P×600、葉書 461
現役サポート費	102,273	差入、OB 交通費補助
その他事業費	8,001	HP サーバー利用料、山行補助
山岳用具購入費	22,343	アイゼン、携行コンロ
遭難対策基金積立	0	積立額 3,420,000
予備費	0	
支出合計	342,293	
次期繰越金	480,210	

第 38 期事業報告（2023 年度）

1. 現役生との交流、サポート
- ・部活動後援会（年会費 20,000 円納入）
- ・月例山行、夏山・合宿等サポート差入れ、医薬品等寄贈
- ・12/9 湖西連峰歩荷競走保安要員派遣 3 名
2. 会報の発行 秋号 600 部印刷 会員＋生徒教諭等へ配付
3. C山行
- C35-1 5/21(日)浜石岳 707m（静岡県）9 名参加
- C35-2 9/23（土）24(日)黒姫山 2023m（長野県）2 名参加
- C35-3 11/23(祝)常光寺山 1439m（水窪町）4 名参加
- C35-4 1/3（水）秋葉山初詣 885m（春野町）11 名参加
4. 家族園遊会
- 6/10（土）須山建設海の家（三ヶ日町都筑 926）13 名参加
5. 総会 1/28(日) 17：00～マインシュロスにて
6. 遭難対策基金積立 新規積立 0 円 / 累計 3,420,000 円

第 39 期北登会役員（2024 年度）

顧問	松山英達（20）
会長	鈴木克巳（36）
副会長	深谷直久（41）、鈴木貴晴（48）
会計監事	大谷一雄（21）、山本寿彦（28）
事務局	高林 宏（25）
会計	北嶋敏明（43）
常任幹事	鶴見敏明（25）、堀 秀人（35）、岩倉万友美（48）、 栗山章子（49）、大東たかし（50）、大澄憲雄（51）
HP管理	鈴木貴晴（48）
会報編集	岩倉万友美（48）

第 39 期予算（2024 年 4 月 1 日～2025 年 3 月 31 日）

収入の部

入会金	0	
年会費	330,000	
雑収入	3	
前期繰越金	480,210	
収入合計	810,213	

支出の部

総会費	0	
会議費	0	
通信費	96,000	
事務備品費	20,000	宛名ラベル、用紙類
渉外費	40,000	部活動後援会費、同左懇親会補助
会報発行費	32,000	前年実績による
現役サポート費	100,000	差入、OB 交通費補助
その他事業費	40,000	園遊会、山行補助
山岳用具購入費	20,000	
遭難対策基金積立	0	積立額 3,420,000
予備費	462,213	
支出合計	810,213	

第 39 期事業計画（2024 年度）

1. 現役生との交流、サポート
- ・部活動後援会（年会費 20,000 円納入）
- ・月例山行、夏山・スキー合宿支援（差入、サポート参加）
- ・山岳技術書貸与、医薬品等寄贈
- 2/2 湖西連峰歩荷競走保安要員派遣
2. 会報の発行
- 秋号 9 月下旬発行（600 部印刷）会員＋生徒教諭等へ配布
3. C山行
- C36-1 5/19（日）朝鮮岩、満観峰 471m（焼津）
- C36-2 11/10（日）三方分山 1422m（山梨県）
4. 家族園遊会
- 10/5（土）須山建設海の家（三ヶ日町都筑 926）
5. 若手会員交流イベント(随時開催)
- キャンプ（焚き火）、ハイキング、スキー、スノーシュートレッキングなど各種体験
6. 新年会
- 1/25(土) 18：00～「なの蔵」にて
7. 遭難対策基金積立
- 積立累計金額を維持

編集発行 北登会事務局 高林宏（25 回）
〒430-0906 浜松市中央区住吉 5 - 20 - 7
TEL：090-5458－5229
e-mail: hiroshi.takabayasi@suyama-group.co.jp
2024 年 9 月 600 部発行 通算第 46 号